

1 主 題 モノづくりと人 1－（2）希望と勇気 不とう不屈

2 資料名 モノづくりと人（自作資料）

3 主題設定の理由

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことはしっかりとやり抜くことが大切である。そこには何事にも粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力も求められる。しかし、それは見通しもなく取り組むのではなく、よりよい自己を実現しようとする向上心と結びついてこそ、前向きな自己の生き方が自覚されてくるといえよう。そのためにも、児童がより高い目標を立てたり、自分としての夢や希望を掲げたりして、その達成や実現への志をもち、勇気をもって取り組むことができるようにすることが重要になる。（「小学校学習指導要領解説 道徳編」）

本校の5年生は、総合的な学習の時間において、甚目寺の地域産業を学習した。夏休みに商店や工場を見学訪問し、「見て」、「聞いて」、「触れて」、「感じる」取材活動を行ってきた。児童は、日頃何気なく使っている刷毛が甚目寺で作られ、日本でトップシェアを占めていることや、和菓子職人が、甚目寺地区特産の農作物を使い、アイデアをもちよって、購入者に喜んでもらえるお菓子作りの開発に勤しんでいることなどを知り、興味をもって聞くことができた。自動車の部品工場では、甚目寺地区の工場で作られている製品の穴あけ技術が世界の2社に入っていることや、金属を研磨してシャフトという小さな部品を作り上げ、品質管理する大変さなどを知る機会をもつことができた。

児童を取り巻く環境は、物にあふれ、物が簡単に手に入る時代となっている。その便利さに反して、物を作る大変さやその労力、生産者の思いに触れる機会に乏しい。本学級の児童は、取材活動を通して、「和菓子の味が江戸時代から現在まで受け継がれているのだ」「甚目寺の近くの工場で、世界に通用する製品を作っているとは知らなかった」と、感想をもつことができた。地域の中で世界に誇れる企業があることに驚きと関心を寄せる一方、取材だけでは、職人の思いや苦労、達成感までを想像し、その時の思いに共感することは難しい。そこで、本自作教材を通して、工場で働く人に焦点をあて、仕事の工程やよりよい物を作り出そうとする努力、困難を乗り越えてあきらめずにやり抜く尊さを考えさせていきたいと考え、主題を設定した。

そこで、本時は、世界トップクラスの穴あけ技術をもつ佐藤工業にお願いして、創業当時のことや製品開発で最も苦労したことなどを質問し、回答していただいた。世界でも2社ぐらいしかない穴あけ技術をもつ佐藤工業。働く人たちの思いに迫ってみたいと考え、その技術を生み出すまでの苦労や葛藤などを資料に盛り込んだ。

この題材を通して、今後児童が生きていく上で、困難な事柄に遭遇した折、困難に立ち向かい葛藤しながらも、粘り強く乗り越えていける力を育てていきたいと願っている。

4 人権教育上の観点

(1) 自己表現力の育成

自分の考えをまとめ、分かりやすく表現し伝える力や、相手の考えを共感的に受容し対応する態度を育てたい。(視点②)

(2) 客観的な認識の育成

人権問題に対する正しい認識と理解を深め、いろいろな観点から物事を広く深く考え、その本質を追求しようとする学習態度や真実を見抜く目を育てたい。(視点⑤)

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ 甚目寺地区のモノづくり企業で働く人に対する姿勢や、そこから分かる働く人の喜びと達成感に共感できる。
- ・ 話し合い活動の中で、相手の考えのよさに気づき、自分の考えを見つめ直すことにより、自分の考えを深めることができる。

(2) 本時を指導するにあたって

- ・ つかむ段階では、働く人の思いについて考えさせるために、実物のバルブボデーを見せることで、興味関心をもたせる。
- ・ 考える段階では、資料を読んで、どのようなことを考えながら仕事に取り組んでいたのか想像させ、自分の考えを理由とともに発表させる。
- ・ 高め合う段階では、働く人の心の葛藤にせまり、児童が見つけたキーワードをもとに自分たちの経験や思いと重ね合わせながら、互いの考えを話し合い、働く人の思いや信念に気づかせる。
- ・ 振り返る段階では、働く人の願いを聞くことで、誇りをもって仕事に取り組んでいることや、困難を乗り越える喜びに気づかせ、高学年としての今後の行動や、考え方に生かし、よりよく生きようとする力や態度に繋いでいく。

(3) 準備・資料

教師 自作資料、取材時の写真、バルブボデー（実物）、校外学習の写真、同心円チャート

まとめカード、佐藤工業からのメッセージ

児童 振り返りシート、付箋、同心円チャート

(4) 指導過程

段階 時間	学 習 活 動	・留意点 [支]支 援 [人]人権教育的配慮 評 価
つ か む 2 分	1 佐藤工業の取材活動や校外学習で学んだことを振り返る。	・ 甚目寺にある自動車部品製造会社について思い出させる。 ・ 豊田自動車の見学の写真とバルブボデーを提示し、興味をもって取り組ませる。
	2 本時の学習課題を知る。	・ 本時のめあてを全員で復唱させる。
	モノづくりと人について考えよう	

考 え る 8 分	3 佐藤工業で働く人についての資料をもとに、心に残ったところを発表する。 (1) 資料を読みながら、心に残ったところに赤線を引く。 (2) 線を引いた理由や、考えたことを発表し合う。 ・ 超精密穴、世界で2社→世界に誇れる技術が甚目寺にある ・ 0.68mmの穴→とても苦労したんだ ・ やってみよう→挑戦 ・ 何度も試作→あきらめない心 ・ 無理かもしれない→悩んだ過去	・ 教師が範読する。 ・ 資料を読みながら赤線を引かせ、引いた理由と心に残った理由を発表させる。 [支] 発表が苦手な児童には、選んだ部分を発表するだけでもよいことを伝える。 ・ 聞き手は、仲間の発表に耳を傾け、自分の考えと比べながら聞くとよいことを伝える。 赤線を引いたところから、自分なりの考えをもつことができる。【発言】
高 め 合 う 30 分	4 働く人の心の変化について考える。 (1) 青い付箋には「限界かもしれない」と思った時の気持ち、赤い付箋には、「やってみよう」と思った時の気持ちを書く。 <青い付箋> ・ もうやめたい ・ 不安 ・ 残念だけど、あきらめるしかない <赤い付箋> ・ やっぱり作りたい ・ あきらめたくない ・ できるかもしれない (2) 全体で発表し合う。 ・ 自分たちにはできないのでは ・ あきらめた方がいいのでは ・ くやしいからやり遂げたい ・ 努力を無駄にしたくない (3) グループで同心円チャートを完成する。 (4) 働く人を支えていたものは何だったのかグループで話し合う。	・ 児童からでたキーワードをもとに、付箋に2つの気持ちを分けて書かせる。 [支] 2つの気持ちが考えられない児童には、どちらかを書けばよいことを伝える。 [支] 困難にぶつかったときの気持ちを、自分の経験に置き換えさせることで、想像させる。 働く人の心の変化について、自分なりの考えを書くことができる。【付箋の記述内容】 ・ 付箋に書いた意見を理由とともに発表し、意見を確認し合う。 ・ 自分の経験を通して、考えを発表させる。 [人] 積極的に話し合いに参加し、仲間の発言に耳を傾け、共感的に受け止めさせる。(視点②) ・ 個人で同心円チャートに付箋を貼らせる。 ・ 同じ意見は、重ね合わせて貼らせる。 ・ 働く人の支えとなったものを見つけ出し、内側の円に書かせる。

	・ 仕事への誇り ・ 自信につながる ・ やりがい ・ よりよいものを作りたい ・ あきらめない心 (5) グループごとに発表する。	[人] 仲間の考えをもとにして自分の考えを見つめ直し、より深く考え、話し合うことができる。 (視点⑤) 仲間の考えに共感し、自分の考えを深めている。【発言】 ・ グループごとに乗り越える力となったものについて発表させる。
振り返る5分	5 ビデオレターを視聴し、本時の振り返りをする。	・ 甚目寺の産業を支えている人たちの思いにふれ、佐藤工業の人の今後の願いを伝える。 (ビデオレター) ・ 今日の授業を振り返って、感じたこと考えたことを振り返りシートに記入させる。

(5) 本時の評価

- ・ 働く人のモノづくりに対する思いに気づくことができたか。
- ・ 困難を乗り越える力となったものについて仲間の考えに共感し、自分の考えを深めることができたか。

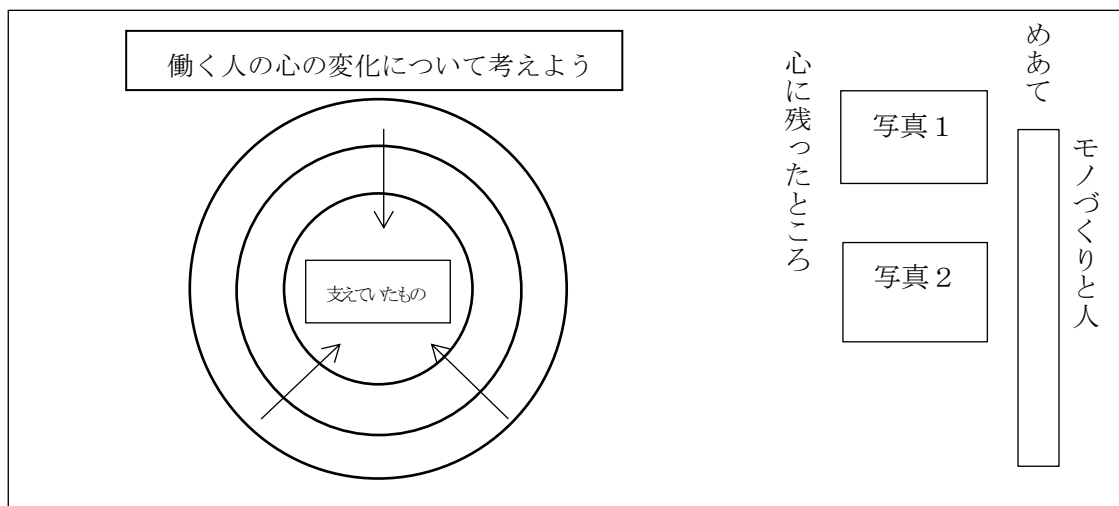
(6) 事後の指導

- ・ 仲間と協力しながら行動することができるよう支援していく。
- ・ 高学年としての誇りをもって、全校のためになることを考えながら生活できるよう、支援していく。
- ・ 産業の発展は、人の思いによって支えられていることを知り、総合学習発表会に生かす。

6 反省

7 高評

8 板書計画



<本時で使用するシンキングツール>

4の「2つの思いを書く活動」で同心円チャートを利用する。

同心円チャート（変化をとらえながら考える）

同心円チャートとは、自分にとって身近な問題や考えを広げて思考するために用いるが、今回は働く人たちの気持ちに着目し、内面を探ることを意図している。

【予想される児童の思考例】

